

2021 年度市民講座／地域創り担い手学習会 開催報告

2022.3

2021 年度市民講座／地域創り担い手学習会はコロナ禍の影響を受け、昨年度に引き続き ZOOM によるオンライン開催となりました。アメリカ SW (social work) 実践者の立場から伊藤由希先生、日本の高齢者福祉研究者の立場から岡本多喜子先生をお招きし、これからの高齢者福祉の在りかたについて、アメリカと日本のグローバルな視野から探りました。下記は、開催概要と質疑応答での内容をまとめたものです。

◇ 開催概要 ◇

テーマ：これからの高齢者福祉実践の在りかたとは ～日本とアメリカの視点から考える～

日時：2022 年 2 月 26 日 (土) 10:30～12:00

内容：・報告 1 伊藤由希氏 (医療法人社団龍岡会・高齢者あんしん相談センター本富士)

「アメリカの高齢者福祉～ニューヨークマンハッタンでのソーシャルワーク実践から見たこと～」

・報告 2 岡本多喜子氏 (本学名誉教授)

「対立ではなく協調を～高齢者が安心して暮らせる社会の構築～」

・質疑応答

*伊藤先生からはアメリカでの実践から、その人自身の理解や自己覚知の大切さについてお話をして頂きました。岡本先生からは日本の高齢社会の現状についてデータを基にご説明頂き、それを地域に落とし込み、地域では対立を生まない、多様性を受け入れていく社会を示唆して頂きました。

◆ 質疑応答 ◆

[質問 1]

NY では現在 SDMNY (Supported Decision Making New York) プロジェクトが進められ、意思決定支援契約 supported decision-making agreements の法的位置づけをする法案が州議会で審議されているようです。こうした動きを NY の SWer (social worker) はどのように受け止めていますか？また、意思決定支援のガイドラインは NY では存在するのでしょうか。

→ 伊藤由希先生

意思決定支援契約 supported decision-making agreements は比較的新しい動きで、私が日本に帰国してから時間が経っているため、申し訳ないですが NY にいる SWer がどう感じているかはお答えできません。私が働いていた頃は日本と比べるとアメリカは訴訟社会の側面があり、実際判断能力を有するかというのは医療現場や介護現場の方でも慎重に対応していた印象が残っています。意思決定能力があるかどうかの判断に精神科医だけでなく SWer もそこに関わったり、割と組織的に判断をしていく印象です。ただ、日本と比べると、そこで意思決定能力が無いと判断されてしまうと、後見人や医療決定の代理人に判断の権限がかなり移ってしまう印象を受けました。でも、その人そのひとの残存能力を大事にしながら、サポートがあれば自分で意思決定ができるのであれば、その人の意思を尊重していきましょうというのが supported decision-making agreements だと理解しています。それ自体は良い動きなのではないかと NY で SW 実践を元々していた者としては感じています。また、ガイドラインについては現場レベルでは組織のガイドラインを参照するので、州としてあるのかはわかりません。

【質問2】

私は資格を持っていませんが、高齢者の相談を生業としています。高齢者が介護事業者に組織的に受けられない要求をした時に、事業者がNOと言ってしまうと、高齢者は「それはどうなんだ、なんでできないんだ」と、「自分の思いを周りが聴いてくれない、助けてくれ」と相談されることがあります。そうした時にどのように関わっていけばよいのか。時間を割いて聴きたい気持ちはあるが、それも難しい。聴いているとこちらもメンタルがくることもある。そういう方に対応する際のアドバイスを頂きたいです。

→ 岡本多喜子先生

高齢者が、自分ではこういう要望があるけれど、その要望をどの事業者も聴いてくれない。もしくは、ヘルパーが家に来たけれど気に食わなくなり、事業者にヘルパーの変更を申し出る。しかしそれが続くと、事業者に「もうお宅には派遣しない」と言われてしまう。これはすごく難しく、ご本人にメンタル的な問題がある場合もある。ご本人としては自分の要求を言っていて、いろいろなサービスを受けているのだから、“私が『雇い主』で来てくれる人は『お手伝いさん』、何でも言うことを聴いてくれる人”という意識を持っている高齢者もいます。その辺りを制度的に申しますと、CM（Care Manager）が“サービスを利用することはこういうことだ”と説明する必要がありますが、実際は「まず利用しましょう」となっている所に一つ問題があるかと思います。また、質問者様ご自身のメンタルに気を付けてください。こういう言い方をすると申し訳ありませんが、相談を受けている方を精神的に壊す方もいらっしゃいます。聴くことは大切ですが、少し別の専門機関に繋げることも大切ですし、もしくは同じような問題を抱えた人たちのグループに参加してもらっても考えられます。どの事業者もどの相談機関も困っている、とても多い問題だと思います。

一点追加ですが、利用者のサービスを受ける権利はどんなに文句が多い方でも、その方が困っていることに対してサービスの提供はしていかなくてははいけません。そういう意味ではいろいろな事業所が沢山あるので、マッチングではないですがCMの力量も問われるかと思います。

→ 伊藤由希先生

岡本先生がおっしゃる通り中々一筋縄ではいかないことが多いのかなと思います。ご本人が“応えてくれない”と感じている現実とのすり合わせ、ご本人がどうとらえていて、相手がどう反応してきてそこでの現実が聴いている立場からどう見えるのか整理しながら、意識しながら聞いていく必要があるかなと思います。そこでいくつかの事業者とやってきてそれでも難しい場合、事業者さん側だけでなくご本人の捉え方やその方自身のなかでも問題やメンタルが潜んでいることもあったりするので、そこを意識しながら聞いていく必要があるかなと思います。

自己覚知の時でも言ったが、相手の思いを聴くなかで、引き出される思いやそこから受ける感情を、自分の中に取り込んでしまうと自分自身がやられてしまう。SWのトレーニングをしていくときに相手との間の境界というか、相手と同じにならないで、自分が思っている感情は何なんだろうと意識していきます。自分自身を守る意味も含め、相手の方に対しての助けにはなりたいが、相手が背負っているものを意識しながら自分の中で区別しながら関わっていく意識を持つことが大事だと思います。自分自身の気持ちを守る、自分自身の気持ちのケアも大切で、エネルギーが枯渇してきたら自分を大事にして自分が心地よいことをするかそういった日々の積み重ねが大事なのではと思います。

*今後も ZOOM によるオンライン開催を検討しておりますので、
近隣の方はもちろんのこと、様々な地域からご参加をお待ちしております。

